第４９回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会　開催要綱
「その時、社協はどうする！？」
～　社協の真価を問う　～

１　趣　　旨

社協は、長年にわたり「誰もが幸せに暮らせるまちづくり」を目指して多くの事業を実施し活動を進めてきましたが、社協自身も合併や財政状況の悪化により指定管理制度の導入や介護保険事業等、組織経営的センスが求められるようになっています。

そうした中で、昨年3月１１日に発生した東日本大震災は、これまで経験したことのない非常に広範囲にわたる被害をもたらし、国民生活に深刻な影響を与えています。この災害復興にあたって、社協はどうするのか、何ができるのか、人と人とのつながりや支え合いを進める社協の活動が、災害（減災・復旧・復興）にどう活かされるのか、今こそ、社協の真価が問われています。

社協が住民を支え、住民の期待に応え、私たちの力を役立てて貰えるように、社協の役割や存在意義を改めて確認し合う必要があります。そして、私たち自身も互いに切磋琢磨し社協の底力を高めるため本協議会を開催します。

２　主　　催

第４９回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会実行委員会
社会福祉法人群馬県社会福祉協議会及び群馬県内市町村社会福祉協議会
関東ブロック社協職員の会連絡会

３　後　　援（予定）

群馬県・みなかみ町

４　日　　時

平成２４年7月１９日（木）13：00～２０日㈮12：00

５　会　　場

水上温泉　「源泉湯の宿　松乃井」
〒379-1617　群馬県利根郡みなかみ町湯原 551
電話 0278-72-3200　FAX0278-72-3210

６　参加対象

関東ブロック都県・郡市区町村社会福祉協議会職員（３００名予定）

７　参加経費

（１）参加費　　６，０００円（群馬県内社協職員連絡協議会から補助）
（２）宿泊・情報交換会費　　１２，０００円
※宿泊は、会場となる「源泉湯の宿　松乃井」となります。

８　日　　程

＜7月１９日(木)＞

12:15	13:00	13:20	13:50	14:10	17:00	18:30
受付	開会	基調説明	移動	分科会	移動	情　報交換会

＜7月２０日(金)＞

8:30	9:00	10:30	12:00
受付	シンポジウム	記念講演	閉会

９　内　　容

＜1日目：7月１９日（木）＞

⑴開　　会　主催者挨拶、オリエンテーション

⑵基 調 説 明　「東日本大震災における社協活動と社協を取り巻く状況について」
全国社会福祉協議会（現在調整中）

⑶分　科　会　６分科会を開催　＊分科会内容は別紙

⑷情報交換会　宴会形式で参加者の交流を深めます。

＜2日目：7月２０日（金）＞

⑴シンポジウム　「その時、社協はどうする！？」

３．１１東日本大震災の経験をもとに、社協の持つつながりの重要性と課題を再認識し、人と人とをどうつなげていくか？何ができるか？を具体的に考えるシンポジウムです。

コーディネーター

ＪＰＣｏｍ　代表　桑原　英文　氏

シンポジスト

南相馬市社会福祉協議会地域福祉課課長補佐　　佐藤　清彦　氏

全日本仏教青年会救護委員長（曹洞宗高雲寺住職）　米澤　智秀　氏

栃木県社会福祉協議会福祉部長　　大島　清美　氏

⑵記念講演　テーマ「災害と地域づくり」（仮題）

講　師　ＪＰＣｏｍ　代表　桑原　英文　氏

10　締　切

申込締切日　平成２４年6月２２日（金）必着

11 申込等

（1）研究協議会に関する問い合わせ

群馬県社会福祉協議会地域福祉課（担当　中越）

〒３７１－８５２５　前橋市新前橋町１３－１２

TEL　027-255-6032　FAX027-255-6444

（2）申込先

沼田市社会福祉協議会（担当　宮野入）

〒378-0053　群馬県沼田市東原新町 1801-72

TEL　0278-22-1990　FAX　0278-22-8402

（3）分科会について

希望者が多数の場合には、ご希望に添えないこともございますので、予めご了承願います。（先着順にて対応させていただきます。）

（4）参加経費の振込先

参加経費は、参加申込とあわせて、お振り込みください。

群馬銀行　安中支店　普通預金　0246020

ｸﾞﾝﾏｹﾝﾅｲｼｬｷｮｳｼｮｸｲﾝﾚﾝﾗｸｷｮｳｷﾞｶｲ　ｶｲｹｲ　ﾁｷﾞﾗｵｻﾐ

群馬県内社協職員連絡協議会　会計　千明長三

（5）宿泊について

宿泊施設の「源泉湯の宿　松乃井」の各部屋は、温泉旅館となり４～５人程度の相部屋となりますことをご承知ください。

（6）キャンセル等について

①申し込み後の取消し及び変更は、FAX にて速やかにご連絡ください。

②キャンセル料（取消料）につきましては、次のとおり扱うこととします。

種別	～7月5日	7月6日～11日	7月12日～17日	7月18日	7月19日
参加費	無料	１００％	１００％	１００％	１００％
宿泊・情報交換会費	無料	２０％	３０％	５０％	１００％

12 その他

（1）資料提供

当日関係資料の展示コーナーを設置しますので、提供できる資料等ございましたら、事前に研究協議会事務局あてに３０部程度ご送付いただくか、当日ご持参ください。

（2）第４９回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究紀要議会

実行委員会ツイッター

「社協関ブロ大会実行委員会」@shakyokamblo

準備の情報をつぶやいていきます。皆さんのフォローお待ちしています。

当日はフォロワー特典として、豪華景品が当たるイベント計画中！！

まだツイッターを始めていない社協職員の皆さんも、この機会に登録して普段から職員間のつながりを作りましょう。

登録や利用方法は　「ツイナビ」http://twinavi.jp/　をご覧ください。

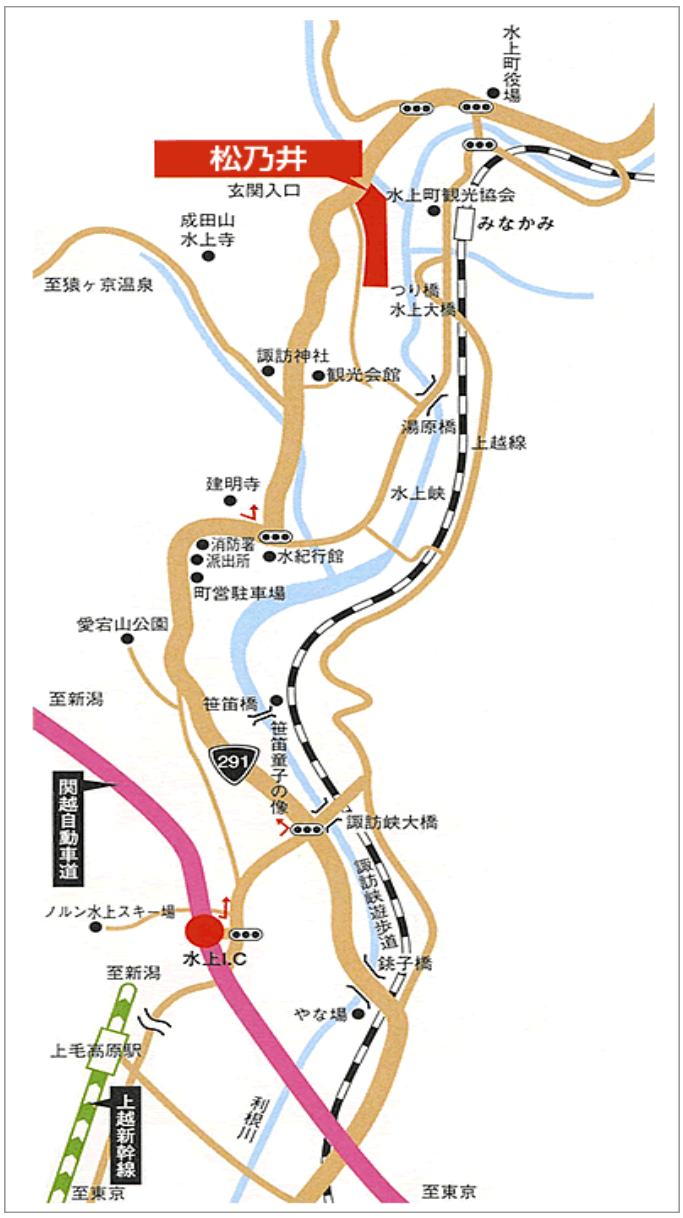
「第４９回関東ブロック郡市町村社協職員合同研究協議会のブログ」もあわせてご覧ください。

13　案内図

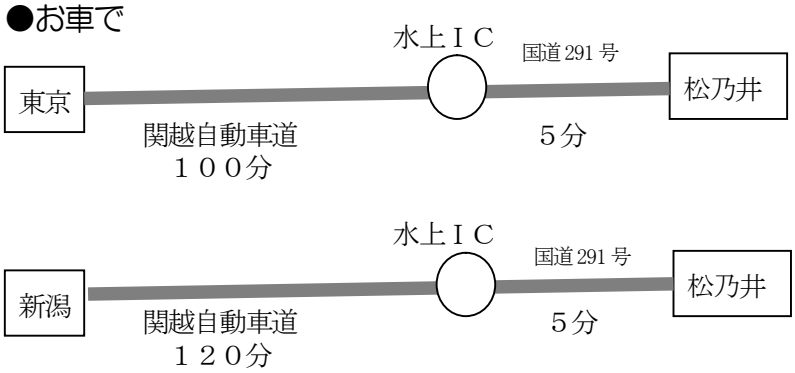
みなかみ町　「源泉湯の宿　松乃井」

（〒379-1617　群馬県利根郡みなかみ町湯原 551）

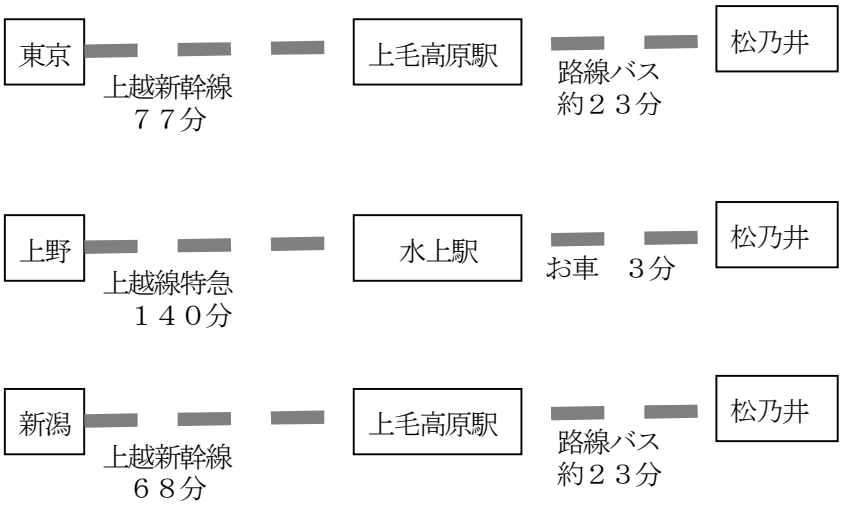
TEL. 0278-72-3200、FAX. 0278-72-3210



●お車で



●電車で



※路線バスは「諏訪原公園入口」にて下車

●路線バス時刻表

上毛高原駅	諏訪原公園入口
１１：１２	１１：２７
１２：１６	１２：３１
１３：１６	１３：３１

諏訪原公園入口	上毛高原駅
１２：４２	１３：０５
１３：４２	１４：０５
１４：３０	１４：５３
１５：４０	１６：０３

※電車、バスをご利用の場合には、事前に時間等をご確認の上ご利用くださいますようお願いします。

第４９回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会　分科会案内

分科会	担当都県	テーマ
第１分科会	**千葉県・静岡県**	**【分科会タイトル】** **お互い様の地域づくり** **【分科会サブタイトル】** **－「ずっとここで暮らしたい」を** **応援する社協活動とは－**
第２分科会	**東京都・長野県**	**【分科会タイトル】** **持ち寄り！検討！持ち帰り！** **地域が担う在宅福祉の推進！** **【分科会サブタイトル】** **「その人らしい生き方・生活　を支える」を考える**
第３分科会	**埼玉県・山梨県**	**【分科会タイトル】** **小規模社協における事業展開** **【分科会サブタイトル】** **～小さなまちの強みを活かす～**
第４分科会	**栃木県・新潟県**	**【分科会タイトル】** **『災害時、社協の役割を発揮するために・・・』** **【分科会サブタイトル】** **－災害支援体制づくりの「要（かなめ）」を見出す－**
第５分科会	**茨城県・神奈川県**	**【分科会タイトル】** **子育てと地域の絆** **【分科会サブタイトル】** **ー 子育てと地域の力** **～子育て家庭を支える地域の力～　ー**
第６分科会	**群馬県**	**【分科会タイトル】** **いっしょにやろう。参加・協働で進める地域福祉** **【分科会サブタイトル】** **～プラットフォームの「言いだしっぺ」に** **なれる社協を目指して～**

第１分科会　**「お互い様の地域づくり」**
－「ずっとここで暮らしたい」を応援する社協活動とは －

千葉県・静岡県

社協は、これまでの長い歴史の中で、地域住民一人ひとりの生活に目を向け、特に制度では対応しづらい福祉問題に対し、地域の協働による解決を重視して、住民が主人公となる社会福祉のあり方を追求してきました。

一方、地域に目を向けると、地域住民の人間関係の希薄化と相まって、「地域社会における支え合い」の力が弱まっています。

本分科会は、地域住民の「ずっとここで暮らしたい」を応援するために、優れた地域福祉活動をしている社協の実践と成果を共有するとともに、これからの地域づくりについて協議します。

(コーディネーター)　大阪府立大学　准教授　小野達也　氏
(事例発表者)　鴨川市社会福祉協議会　主事　高梨美代子　氏
松戸市社会福祉協議会　事務局長補佐　佐藤英美　氏
磐田市社会福祉協議会　地域福祉係長　礒部直志　氏

第２分科会　**「持ち寄り！検討！持ち帰り！**
地域が担う在宅福祉の推進！」
「その人らしい生き方・生活’を支える」を考える

東京都・長野県

社協は、‘その人らしい生き方・生活’を支えるために地域の状況にあわせて、制度的な在宅福祉サービス、インフォーマルサービス、住民福祉活動の推進等、様々な実践を行っています。

そうしたなか、政府が示した「新しい公共」、改正介護保険法で謳われる地域包括ケアの推進等、在宅福祉を推進する取り組みが注目を集めています。

本分科会は、それぞれの社協が行っている様々な在宅福祉推進に向けた取り組みを持ち寄り、協議し、社協が目指す在宅福祉を再確認することによって、次の実践を展開する原動力とすることを目的とします。

※本分科会は参加型ワークショップです。参加者には、申し込み後、事前課題等について案内を行います。

(コーディネーター)　ＮＨＫ学園　社会福祉士養成課程　専任教員　坪井　真　氏

第３分科会　**「小規模社協における事業展開」**
～小さなまちの強みを活かす～

埼玉県・山梨県

小規模社協では、地域福祉事業と総務事務などを１人の職員が担っているところも少なくありません。こうした厳しい体制であっても、我々「社協」には、地域住民の個別ニーズに対応していくことが求められます。

公的福祉サービスでは埋められない個別ニーズに小規模社協はどう対応していけばよいのでしょうか。本分科会では、小規模であっても、「小さい」ことを「強み」として捉え、地域の特性を活かした小規模社協ならではの事業展開について考えます。

(コーディネーター)　日本社会事業大学　講師　菱沼幹男　氏
(事例発表者)　小菅村社会福祉協議会　福祉センター所長　青柳ひとみ　氏
三芳町社会福祉協議会　主任　古賀和美　氏

第４分科会　**『災害時、社協の役割を発揮するために・・・』**

栃木県・新潟県

－災害支援体制づくりの「要（かなめ）」を見出す－

私たち社協は、ひとたび大規模災害が発生すれば、行政、ボランティア、ＮＰＯ等と連携し、災害ボランティアセンターを運営してきました。また、復旧復興の状況に応じた長期的な生活支援もその役割として、今もその活動は継続されています。

この度の東日本大震災では、全国の各社協が長期間にわたり、ボランティアや職員派遣等被災地社協の支援に関わってきました。（全社協やブロック間調整含む）

今後は、災害の規模や種類、時期に応じた体制づくり（対応や連携の在り方）についての検証を行い、課題と対策を整理していくことが望まれています。

本分科会では、これまでの支援活動を振り返り、今後社協は平時から地域でどのような連携、支援体制づくりを進めるべきか、「要（かなめ）」を見出します。

今回の「経験」を活かし、「前進」させることで地域福祉を推進しましょう。

(コーディネーター)　新潟県社会福祉協議会　総務企画課企画室　室長　横堀直樹　氏
(事例発表者)　相馬市社会福祉協議会
次長兼生活復興ボランティアセンター長　今野　大　氏
日光市社会福祉協議会　主査　福田良江　氏
柏崎市社会福祉協議会　主任　山埼博之　氏

第５分科会　**「子育てと地域の絆」**
ー 子育てと地域の力
～子育て家庭を支える地域の力～　ー

茨城県・神奈川県

人の気持ちを理解し互いを認め合い、共に生きることができる。このような子どもの健やかな育ちは社会を構成するすべての大人にとって願いであり、喜びである。経済状況や幼少期の生育環境によって格差が生じることなく、その育ちが等しく保障されるよう取り組まなければならない。

子育て中の親を取り巻く家庭、地域の状況や変化を再確認するとともに、事例発表者自身の子育て体験も含め子育てを応援する立場に至ったきっかけと親として子育てを通じ自らが成長した出会い等、子育て支援のあり方について意見交換を行う。

(コーディネーター)　調整中
(事例発表者)　ＮＰＯ法人ままとーん　代表　野島真奈美　氏
たまり場「たまりん」会長　菅沢　純　氏
ひたちなか市佐野地区民生委員　主任児童委員　下重幸子　氏

第６分科会　**「いっしょにやろう。参加・協働で進める地域福祉」**
～プラットフォームの「言いだしっぺ」に
なれる社協を目指して～

群馬県

社会福祉協議会は日頃から地域課題解決のために、市民や様々な組織とつながりをもって活動を進めていて、参加・協働を促すプラットフォームを提供する役割が期待されている“はず”…ですが、

「言うは易く行うは難し」、「協働」ってお題目のように使っちゃうけど、いまさら誰にも聞けないけど、そもそも協働ってなんだろう、どうやって協働するんだろう、って困っている社協マンいませんか？

日頃から多様な市民・組織との関係を紡ぎ、必要に応じてそれぞれをつなぎ、協議する場、必要な活動を創っていく社会福祉協議会であるためにはどうしたらよいかを参加者みんなで考えましょう。

(コーディネーター)　前橋市社会福祉協議会ボランティアセンター主事　髙山弘毅　氏
(事例発表者)　福島県社会福祉協議会　人材研修課　主任主査　斉藤知道　氏
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター　企画主任　吉田建治　氏
中央共同募金会　企画広報部　主事　城　千聡　氏